

第4回米百俵賞特別賞受賞

(平成12年6月15日表彰)

**寒川 孝久** (徳島県北島町)



絵のついた点訳という新しい分野を開拓し、目の不自由な子どもたちの豊かな心を育むとともに絵本の点訳者の育成に貢献した。

#### ■受賞時プロフィール

寒川氏は、徳島県板野東小学校を定年退職した後、板野町社会福祉協議会事務局長を務め、社会福祉の重要性を痛感。平成3年に点訳奉仕員養成講座を受講し、童話の点訳を始めた。同期の人の多くが成人向けの点訳をしていたので、氏は児童向けの点訳を始めた。

初めてイソップ物語の「ライオンとねずみ」を打って、盲学校へ持って行った。4年生の男児が、指ですらすらと声を出して読んでくれたが、その子が読んだあとで「ぼく、ライオンってどんな形か知らん」とつぶやいた。ライオンやねずみがどんな動物か知らなければ、お話の意味が理解できない。氏は「子どもの本の

点訳には、挿絵を付けなければだめだ」と痛感。しかし、当時、挿絵のついた点字の児童書はほとんどなかった。

氏は試行錯誤の末、点字の点を使って絵を描く点字図形形成器を作り、これを使って、「かぐやひめ」「ねずみのよめいり」などに挿絵のついた点字絵本を作り、子どもたちから大変に喜ばれた。

しかし、点字はパソコンで大量印刷できるが、絵は手作業であった。これを見



▲児童生徒制作の点字絵本展

た盲学校の藤野稔寛先生が、点字の点で絵を描くソフトを作ってくれた。これを使って数多くの絵本を点訳し、全国の盲学校に贈った。さらに英語の絵本の点訳も手がけ、日本のみならず海外の盲学校への寄贈もしており、寄贈冊数は 2,500 冊に及ぶ。

また、点字絵本という新分野の普及のため、平成 6 年に「点字絵本作成講座」を開催。その受講者が中心となって「点字絵本の会」が結成され、県外にもその輪が広がっている。

## ■受賞後の活動

「点字絵本の会」には全国から会員が集まり、多数の絵のついた点字の童話等を全国の盲学校に提供し続けた。これらは視覚障害児の豊かな情操の育成に役立つと大きな反響があった。

英文の点字絵本をアメリカ 50 州の州立盲学校に贈ったところ、アメリカには絵のついた点字の本はまだないと、先生及び児童からもっと点訳してほしいと多くの本が送られてきた。

このようにして点字絵本の点訳データは増大し、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、韓国など、海外の盲学校へも発送して、国際交流が生まれた。

点訳図書数 (平成 22 年 9 月現在)	
絵本・童話	882 編
児童文学	706 編
コミック等	72 編
学習資料	753 編
英文	166 編

## ■主な受賞歴

- 平成 14 年 NHK 四国ふれあい文化賞
- 平成 25 年 瑞宝双光章